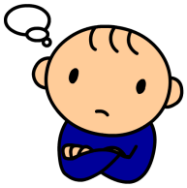
「主体的・対話的で深い学び」を実現し、資質・能力の育成につなげるために

主体的な学び

〇生き生きと活動に参加し、できた喜びを感じられるようにするために

・正確な実態把握を行い、児童の興味関心、得意なことを知る。
・分かりやすい内容と肯定的な言葉掛けにより、意欲の持続を図る。
・自分で選択する場面を設定し、意思を引き出す。
・視覚的支援や ICT 機器を活用し、児童の主体的な活動を促す。
・同じ題材でも、児童一人一人に応じた方法で取り組めるよう工夫する。
・目的意識をもたせるような支援や言葉掛けをする。
・どの児童も能力を発揮できるように、道具や補助具を工夫する。



対話的な学び

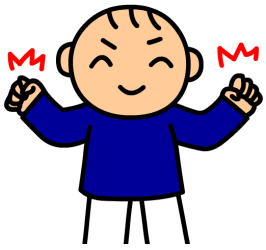
〇対話を通して自己の考えを広げられるようにするために

・児童の行動や作品を言葉でフィードバックすることで、対話の場面を作る。
・友達を意識するような題材を設定する。例えば、一緒に物を運ぶ、合奏をするなど、息を合わせるとうまくいくゲームなど。
・感想を発表する場面では、「楽しかった。」「頑張った。」などの正の感情だけでなく、「嫌だった。」「うまくできなかった。」などの負の感情も受け入れる。聞く側から「良かったね。」「頑張ったね。」などと返答することで、対話の場面になる。
・友達との対話が難しい児童も、教材を介して教師や友達と関わることで、活動の幅を広げたり新たな言葉を獲得したりすることができる。

深い学び

〇学んだことをもとに考え、工夫して生活の中で生かせるようにするために

・見通しをもって取り組めるように、繰り返し学習できる場面を設定する。
・児童が自分で考えて動けるように、言葉掛けに代わる支援方法を工夫する。
・活動中の余計な注意を減らすために、事前に活動のポイントや約束事を確認しておく。
・「次は何だったかな。」「この作品のタイトルは何ですか。」など、思考に揺さぶりを掛けるような問い掛けをすることで表出の力を伸ばし、児童からの発信を受け入れることで受容される経験を増やす。

資質・能力の育成

・知識及び技能
・思考力、判断力、表現力等
・学びに向かう力、人間性等